

マレーシアの大学事情

(サービス貿易の視点から見る外国人留学生 25 万人計画)

近年、高等学校の修学旅行や研修旅行先としてマレーシアが注目されています。異文化理解としての英語を通じた表現力の育成や国際性、グローバルな視野を持つことなどを目的として、多民族国家であり、英語が通じるマレーシアが選ばれているのかもしれませんが。また、マハティール前首相が提唱した「ルックイースト・ポリシー（東方政策）」の下で、マレーシアから多くの留学生や研修生が日本の大学や研修機関で学び、帰国したマレーシア人が今日のマレーシアの発展を担っていることも日本では知られており、親しみが持てることも理由の一つかもしれません。

マレーシアへの修学旅行や研修旅行では、現地の高校や大学も訪問先となることもあるようです。今回のミニ情報では、サービス貿易の視点からマレーシアの大学の外国人留学生受入れについて取り上げ、お伝えしたいと思います。

マレーシアには現在、20 の国立大学、37 の私立大学、11 の海外の大学のマレーシア分校、400 以上の私立カレッジ¹が存在しています。マレーシア高等教育省によると、2016 年末時点で 132,710 人の留学生がマレーシアの高等教育機関で学んでおり、マレーシア政府は、2025 年までに外国人留学生数を 25 万人まで増やすことを目標としています。日本では、1983 年の中曽根首相の時に 2000 年までに 10 万人の留学生を受入れることを目標とした「留学生 10 万人計画」が発表され 2003 年に 10 万人に達しました。その後、2008 年に「留学生 30 万人計画」が発表され、2020 年までに留学生を 30 万人に増やすことを目標としています。

マレーシアの高等教育機関で学ぶ留学生の国籍を見るとその多くはバングラデシュ、中国、インドネシア、ナイジェリア、インド、パキスタンなどの国からの留学生であることが知られています。また、2014 年のユネスコによる報告書「Higher Education Asia: Expanding Out, Expanding Up」では、留学生がマレーシアを留学先として選ぶ理由として 5 つの理由が挙げられています。その 5 つの理由とは①文化的多様性②生活費③価値に見合う教育④言語（英語）⑤生活の質、です。

¹ 学士以上の学位（Degree）の授与資格がない教育機関でディプロマ及びサーティフィケートレベルのマレーシアの教育課程を提供しています。そのため、後述する外国大学との連携により、それらの大学が設置する学士以上の課程を提供（ツイニングプログラムやフランチャイズプログラムと呼ばれています）。

マレーシアはマレー系、華人、インド系などの多民族多宗教国家であり、生活費も欧米や日本などと比べ安く、英語でしっかりとした教育が受けられ、生活の質も高いというのが人気となり、中東諸国や中央アジア、アフリカなどの地域の国々の人々にも魅力的な留学先となっているようです。

マレーシアには 11 の海外の大学のマレーシア分校、400 以上の私立カレッジが存在しますが、この数を聞いてずいぶん多いと思われた方もいるかもしれません。1996 年にマレーシアでは国立大学の法人化とともに海外の大学の分校を含めた私立高等教育機関の設置・運営が認められるようになりました。以後、マレーシアでは多くの私立高等教育機関が、海外の大学と提携したプログラムを提供しています。2007 年にはマレーシア資格機構(Malaysian Qualifications Agency: MQA)が高等教育機関の質を管理・保証する機関として発足し、MQA の下、学術資格・学位レベルを示すマレーシア資格枠組み(Malaysian Qualifications Framework: MQF)が導入されています。

少し古い情報になりますが、ユネスコ統計研究所の報告によると、全世界の留学生数は 2012 年時点で 400 万人を超えているとのこと。グローバル化が進む中で、海外分校の設置や e ラーニングといった形態での国境を越えて提供される教育は今後、さらに増えるでしょうし、国際間の学生移動と留学生獲得をめぐる各国間や大学間での競争はさらに激しさを増すことが予想されます。

こうした中、国際間の大学評価としての一つの指標として世界大学ランキングが活用されています。イギリスの高等教育専門誌 Times Higher Education (THE) や同じくイギリスのクアレリ・シモンズ社 (QS)、中国の上海交通大学による世界大学学術ランキング (ARWU) などが有名ですが、大学をさまざまな指標によって順位付けした国際ランキングであり、日本の大学もランキングされているので、ニュースなどで耳にされることもあるかと思います。マレーシアの大学ですとマラヤ大学 (114 位)、マレーシアプトラ大学 (229 位)、マレーシア国民大学 (230 位)、マレーシア工科大学 (253 位) マレーシアサインズ大学 (264 位) の 5 大学が、最新の QS 世界大学ランキング (2017 年 7 月時点) で 300 位以内にランクインされています。

高等教育を含む教育サービスはサービス貿易の中の一分類として世界貿易機関 (WTO) において貿易交渉の対象として取り扱われており、実際の貿易交渉ではサービスの態様 (モード) から、第 1 モード「国境を越える取引」(e ラーニングや遠隔教育)、第 2 モード「海外における消費」(海外留学)、第 3 モード「業

務上の拠点を通じたサービス提供」(海外分校やフランチャイズプログラム)、第4モード「自然人の移動」(研究者の海外教育活動)の4つに分類されています。

上記の4つの分類をマレーシアの高等教育に照らし合わせると、第2モード、第3モードを中心としたサービス貿易活動が活発に行われていることがうかがえます。マレーシアが2025年までに留学生25万人を達成するには、今後、各国間での留学生獲得競争での優位性をさらに高めつつ、サービス貿易としての国際間の高等教育サービスに対する障壁が低くなることが求められますし、そのためには教育の質保証に対して、国際間でどのように対処していくのが注目されます。

(Y. I)*

*本コラムは筆者の個人的見解に基づいて書かれており、日本アセアンセンターの見解を表すものではありません。



(写真はマラヤ大学)